

リード

No.
45

黄金崎公園 展望台



新年あけましておめでとうございます。

吉田松陰は「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なし者に成功なし、故に、夢なき者に成功なし」と語りました。この言葉は、私たちが地域の未来を考えるうえで大切な指針です。

人口減少や物価高、人手不足など、地域を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。夢や理想を持ち、計画的に行動することが、地域経済を支える力になります。

西伊豆町商工会は、会員の皆さまと共に学び、協力しながら、商業、観光、ものづくりなど地域の特色を生かし、持続可能な発展を目指してまいります。

小さな工夫や改善を重ね、日々の商いを丁寧に続けることが、地域の信頼を育てます。変化の波に向き合いながら、販路拡大や事業承継、人材育成に取り組む、地域内での経済循環を高め、安定した収益基盤を築いていくことを目指します。

地域全体が共に成長し、未来への投資と活力が広がる一年となりますよう、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

西伊豆町商工会長 国本正徳



黄金崎公園 馬ロック

会員数

(令和8年1月1日現在)

仁科地区	158
田子地区	76
宇久須地区	59
安良里地区	38
町外	16

合計 347

新会員紹介

株式会社ムーヴ 豆花

食事処



■代表者 新井 智行
■住所 西伊豆町仁科802-18
■電話 0558-38-0490
■営業時間 土日・祝日 8:00~20:00
平日 11:00~20:00
■定休日 水・木
■E-mail mamehana2020@gmail.com

昨年オープンしたお食事処です。出来るだけ地の食材を使い、季節感のある料理を提供します。リーズナブルでアットホームなお店です。近所の人々も観光の人々も気軽にお立ち寄りください。

株式会社 GAKU がんばる会員企業

藤井社長に聞きました！

- Q、藤井新聞店から(株)GAKUに名称変更した理由は何？
A、法人化する際に会社の理念(常に学び続け、地域やクライアントと共有したい)を先に考え、そこから会社名をつけました。GAKUは「学び続ける」という意思の表れです。地域活性化と共に成長する会社にしていきたいです。
- Q、現在の事業内容は？
A、西伊豆町(仁科・田子)、松崎町全域、沼津市(内浦・西浦)で新聞の販売・配達を行っています。またモバイルショップでは新規のスマホ契約や端末販売、各種相談に乗っています。その他には「デザイン制作」で折込チラシを制作、ロードマップや公民館の公演ポスターなどを手掛けています。
- Q、西伊豆において気をつけている事は？
A、「自社主体ではなくお客様と寄り添う」「他企業と共生する」という姿勢が何より大事だと思っています。また新聞以外のサービスについては、価格を都市部より控えめにエリアに適応した値段帯に設定するよう心がけています。
- Q、一昨年に日本新聞協会から「地域貢献大賞」を受賞されましたが、どの様な事が評価されたか？
A、地域のデジタル化支援への助力が評価されて賞をいただきました。地域の方
- Q、デジタル弱者ゼロの地域を目指すという目標のために、行政と協力しあっているのは「情報」や「安心」なので、「困っていたけど助かった」と言われたときに、この仕事の意味を感じます。大変なのは、地域の高齢化や人手不足など、構造的な課題と向き合わなければならぬこと。やればやるほど「簡単じゃない」と思うことも多いですが、そこに挑むのが面白さでもあります。
- Q、今後やりたい事は？
A、「デジタル弱者ゼロ」の地域を目指すという目標のために、行政と協力しあっている。町のICTを更に浸透させていきたいです。具体的にはスマホ教室を定期的に開催したり、よりスマホ端末を購入しやすくするなど、更に皆様へ身近なものに感じていただけるように展開していきます。
- Q、やりがいと大変な事は？
A、やりがいは「ありがとう」と言われる瞬間ですね。新聞もスマホも、届けているのは「情報」や「安心」なので、「困っていたけど助かった」と言われたときに、この仕事の意味を感じます。大変なのは、地域の高齢化や人手不足など、構造的な課題と向き合わなければならぬこと。やればやるほど「簡単じゃない」と思うことも多いですが、そこに挑むのが面白さでもあります。
- Q、人手不足のなか人員確保は？
A、人手は弊社でも充足しているわけではありません。ただ、多くの事業を展開していること、拠点が複数あること、を活かして人材を回しています。具体的には、入社時に配属された部署以外の仕事でも、興味と余力があれば積極的に体験してもらっています。その中で新たな才能や興味が引き出され、会社の人財となってくれています。
- Q、やりがいと大変な事は？
A、やりがいは「ありがとう」と言われる瞬間ですね。新聞もスマホも、届けているのは「情報」や「安心」なので、「困っていたけど助かった」と言われたときに、この仕事の意味を感じます。大変なのは、地域の高齢化や人手不足など、構造的な課題と向き合わなければならぬこと。やればやるほど「簡単じゃない」と思うことも多いですが、そこに挑むのが面白さでもあります。



が「デジタル難民」とならないようにスマートフォン教室を開催したりモバイルショップを始めたこと、またスタッフにも地域の情報化の担い手という自覚を芽生えさせたことが高く評価されたのかと思います。

本年も広報誌リードをよろしくお願ひ致します。

今号では久しぶりの「がんばる会員企業」にて株式会社GAKUを取り上げさせて頂きました。本業の事業拡大から他業種への事業開拓、刺激になる社長さんでした。

さて、新たな一年が皆様にとって良い年になりますように心よりお祈り申し上げます。

広報委員長 杉井政彦

編集後記

発行責任者 西伊豆町商工会 会長 国本正徳
編集 西伊豆町商工会広報委員会
住所 賀茂郡西伊豆町仁科423-1
TEL 0558-52-0270
FAX 0558-52-1502
URL https://nishiiizucho-shokokai.com/
E-mail u-yake@cy.tnc.ne.jp

発行日 令和8年1月1日

意見交換会



西伊豆町議員と商工会役員

11月14日（金）西伊豆町商工会館において西伊豆町議会議員と第3回目となる意見交換会が行われました。
産業振興を担当する第2常任委員会として、商工会の現状を深く理解し、町の商工業を盛り上げていくことが目的です。
今回の話し合いでは、高齢化による「事業者の廃業」「担い手不足」が課題に挙がりました。商工会ではこの対策として、「事業承継」等の支援に重点的に取り組んでいます。
今後も行政と連携を深め、より良い地域経済発展のために尽力してまいります。

ChatGPTセミナー

何かと話題の『チャットピー』を知っていますか？生成AIの「ChatGPT」のことだそうなんです。
これからビジネスはもちろん生活の様々なシーンに利用されるであろう生成AIについて9月12日（金）と24日（水）の2回に渡って、講師に神南氏を迎えセミナーを開催しました。
参加者の皆さんは
「生成AIはどのようなものなのか」
「利用方法や利用シーンは」
「危険性や注意点は」
「他のものと組み合わせるの活用は」
など基本的な事から多岐に渡って学びました。



わかりやすく丁寧に講義する
神南臣之輔 販促コンサルタント

節税対策セミナー



熱心に聴講しその日から
利用を開始した受講者も！



節税を明快に説明する
土屋晴行 公認会計士

11月20日（木）西伊豆町商工会館において節税対策セミナー「税務調査に対応できる決算と節税対策」を開催しました。

部会・委員会だより

観光部会

今年度は『西伊豆町グルメマップ』の大幅リニューアルをしました。
前回から新たに7店舗が加わり更にパワーアップしました！
このマップは観光客にもすごく人気があり、一万冊を作成してもすぐ無くなってしまおうという嬉しい悲鳴です。マップを見て沢山の方が町内飲食店を利用してくれることを願っています。



商業部会

商業部会ブースでは今年度新しく認定された特産品の展示や試食、80商品もの認定品の魅力などが掲載された『新西伊豆自慢品カタログ』のお披露目をしました。
又、ステージでは今年度認定された10商品の認定証書授与式も行い、会場に集まった多くのお客様に特産品のPRをしました。



- ①株式会社モアツール
- ②③森のカフェ リトルハート
- ④株式会社田子丸
- ⑤⑥株式会社藤文
- ⑦⑧⑨株式会社ササキアロエ
- ⑩Forest Design



⑦サンセットスイート® 冷やし焼き芋
⑧サンセットスイート® 干し芋
⑨サンセットスイート® 干し芋
⑩サンセットスイート® 干し芋

女性部

今年も女性部で出店し、カレーパン、揚げパン、お茶ペットボトルを販売しました。早期完売だった例年の反省を改善するため、かなり増量して挑みました。雨天の影響により来場者が見込みより少なく、完売できるか心配しながらの販売でした。それでも、沢山の方が足を運んでくださり、2時間ほどで見事完売いたしました。
また、女性部で新しくTシャツを作成し、今回が初お披露目となりました。多くの方々から、お褒めの言葉をいただき、今後も部員一同、張り切って活動をおこなってまいります！



青年部



今年のふるさとまつりは子供向けに「ガラガラくじ」を出店し、特賞の目玉景品は「最新作ポケモンゲーム」を用意しました。

参加した子供たちはゲーム欲しさに何度もガラガラくじに挑み、なかなか当たらず悔しがっていた子もイベント限定の青年部オリジナルの「馬ロックトートバッグ」や「馬ロック缶バッジ」などの景品を手に入れ、満面の笑顔となりました。

青年部ブースには延べ100人以上の多くの親子連れが訪れ、抽選機はなんと366回も回され、大いに盛り上がりしました。
毎年、ふるさとまつりには多くの子供が集まるので、子供たちが楽しめるブースを目指し、これからも喜んでもらえる企画を実施します。